

平成27年度

外部評価実施結果に対する
市の方針及び対応報告書

刈谷市
平成28年2月

報 告

刈谷市行政評価委員会委員長 様

平成27年度外部評価実施結果に対する市の方針及び対応について報告します。

平成28年2月4日

刈谷市長 竹 中 良 則

目 次

1	本報告書について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	外部評価実施結果に対する市の方針及び対応について・・・・・・・・	1
	(No. 1) 市街地・住環境「市街地の整備・改善」・・・・・・・・	2
	(No. 2) 次世代育成・子育て支援「幼稚園・保育園の整備・充実」	4

1 本報告書について

本報告書は、平成27年10月22日付けで刈谷市行政評価委員会より刈谷市長あてに提出された「外部評価実施結果報告書」を受け、これに対する市の方針及び対応を掲載しています。

なお、今年度の外部評価は、第7次刈谷市総合計画に位置付けられた116の施策の内容（小施策）のうち、2つの小施策を選定し、平成27年8月4日に実施されました。

2 外部評価実施結果に対する市の方針及び対応について

行政評価委員の皆様からいただいた貴重なご意見に対しまして、市の考え方として今後どのように対応させていただくのかという市の方針を示し、すぐに改善できるもの、予算措置が必要なものなど、対応をすでに実施したものについてはその内容を掲載しました。

今年度外部評価を実施した2つの小施策について、行政評価委員の意見及び委員の意見に対する市の考え方を、次ページより1小施策当たり見開き2ページで掲載しています。

外部評価を実施した小施策一覧

No	基本施策	小施策（施策の内容）	とりまとめ課	関係課
1	市街地・住環境	市街地の整備・改善	まちづくり推進課	道路建設課 区画整理課 都市交通課
2	次世代育成 ・子育て支援	幼稚園・保育園の整備・充実	子ども課	財務課

No.	1	小施策責任者	都市整備部長
基本施策	市街地・住環境	とりまとめ課	まちづくり推進課
施策の内容 (小施策)	市街地の整備・改善	関係課	道路建設課、区画整理課、都市交通課
	行政評価委員からの意見	委員の意見に対する市の考え方	
①	<p>本来の都市計画は住居、工業、商業を分けるという考え方で、騒音を出す工場の隣に住居があるのは望ましくない。しかし、混在した多機能なまちの方がおもしろいという見方も出てきた。刈谷市のビジョンとして、今後の50年、100年を考えていくうえで、有識者の意見をしっかりと聞くことが大事であり、ワークショップなど多層なかたち、多様なかたちで市民参画を行いながら考えていってほしい。</p>	<p>人口減少社会・超高齢社会が到来し、自治体を取り巻く環境が大きく変化する中で、ご指摘にもあるように住・工・商が混在した多機能なまちも注目されるなど、価値感が多様化してきています。</p> <p>こうした中、多様化する価値感やニーズを的確に捉え、今後の50年先、100年先と時代の先を見通す視点を大切に、多層なかたち、多様なかたちで有識者や市民の皆さまにご協力をいただきながら、持続可能な未来志向のまちづくりの推進を目指します。</p>	
②	<p>刈谷市がコンパクトシティを創りあげていく場合は、ネットワーク型のコンパクトシティを実践している富山市を参考にするとよい。各地域からのバス路線を中心市街地では必ず周遊させ、各路線は1時間に1本かもしれないが、各路線が集まる中心市街地では1時間に何本もの周遊路線が成り立つ。各地域の拠点となるバス停を鉄道駅に見立てて、ミニコンパクトシティをつくり、市の拠点であるJRや名鉄に接続させるといった方向で検討してほしい。</p>	<p>本市の目指すべき都市構造は、駅やバス停など交通結節点周辺に拠点を配置し、市民生活に必要な機能を適切に分担させ、各拠点間を都市交通ネットワークで連携させるネットワーク型のコンパクトシティであり、都市計画マスタープランに位置づけています。</p> <p>今後、いただいたご意見を参考に検討を進めていきたいと考えています。</p>	
③	<p>日本全国同じメニューでまちづくりを行ってきたが、ナンバーワンよりオンリーワンのまちづくりを行うためには、やはり歴史文化である。刈谷は工業都市というイメージだが、城下町の歴史があることを広め、空間的に示すことによって、魅力的な住居エリア、商業エリアになっていく可能性があり、ブランドイメージを上げるための核となりうるエリア。土木、都市計画サイドだけでなく、文化サイドとプロジェクトチームをつくって、全庁的に推進していただきたい。</p>	<p>本市には、城下町として栄えた歴史を始め、刈谷ならではの様々な魅力、地域資源がありますので、先人が築き上げてきた古き良き伝統を継承し、文化、レジャー、スポーツなど多種多様な刈谷の強みを活用したまちづくりが大切であると考えています。</p> <p>また、新年度から教育委員会の文化関連部署を市長部局へ配置し、文化観光課を新設します。同じ市長部局である土木・都市計画関連部署とこれまで以上に連携を密にし、いただいたご意見を参考にしながら、歴史と文化が調和するまちづくり、魅力あるオンリーワンとなるまちづくりの展開に繋げていきたいと思っております。</p>	

	行政評価委員からの意見	委員の意見に対する市の考え方
④	<p>事務事業評価シート「市道2-496号線他道路新設改良事業」について、B事業実績の成果欄の記載と活動指標に同じことが書かれている。活動と成果はまったく違うので、それぞれの違いを明確に認識したうえで記載してほしい。また、D効率性の欄は、道路整備に合わせて電線類地中化を行って経費節減できたことは当たり前なので、それを前提としたうえで、例えば入札の総合評価の意思決定について記載してほしい。</p>	<p>成果と活動指標の関係ですが、成果やその効果などを客観的に示しているものが指標であると考えています。活動指標と成果指標は違うものですので、「道路整備率」を活動指標に修正し、成果欄の記載も変更しました。</p> <p>効率性の評価は、整備と電線類地中化を同時に行うことで事業進捗と経費面で効率的なのは明らかですので、「普通」と評価しました。なお、本事業の総合評価は、主に過去の工事成績や人員配備体制等による加点の差で落札が決定していますので、本事業の場合は効率性の評価としては適当でないと判断させていただきました。</p>
⑤	<p>刈谷に人が集まるのはなぜかという働く場所があるから集まるまちであり、その人たちに対してどういったまちづくりをしていくか。まちの特色は、人しか通れない小道や森のような公園などたくさんあり、その上で便利な道路、住環境が必要などまちづくりは難しいが、その中でどこに特色を出し、今暮らしている市民がいきまちなどと思えるよう、どの事務事業を優先的にやっていくかを考えてほしい。</p>	<p>市民生活の安心・安全を向上させる事務事業を第一優先に実施するとともに、刈谷の特色として歴史や文化など刈谷をもっと知り、愛着を持っていただくことによって、刈谷に住み続けたい、住んでよかったと住みやすさを実感できるまちづくりを推進していきたいと考えています。</p> <p>また、自動車関連産業の集積地である本市は、全国平均の2倍近い割合の48.2%が第二次産業従事者(平成22年国勢調査)であり、最も大きな特色の1つです。通勤者の利便性を向上させる事務事業はもちろんのこと、将来的に刈谷を選んでいただけるよう、生活、交通、レジャーなど様々な面で利便性の高い魅力的なまちづくりを推進していきたいと考えています。</p>
⑥	<p>来年の4月に施行される障害者差別解消法によって、多くの車椅子の方が刈谷市に働きにくることも含めて、市街地の整備・改善に関連して、こういった問題についても取り組んでほしい。</p>	<p>本市は、誰もが歩きやすい歩行空間、利用しやすい施設づくりを目指し、現在、市道01-25号線などの道路やJR逢妻駅などの施設のユニバーサルデザイン化を推進しています。また、段差等の解消が必要な歩道を把握するための調査も行っています。</p> <p>今後も引き続きこれらの事務事業を着実に実施し、ハード面からも障害者差別解消法を意識して、市街地の整備・改善を推進していきます。</p>
⑦	<p>成果指標「刈谷駅乗降者数」が増加することと市街地が住みやすくなったという因果関係が分からない。例えば、これに加えて「バス乗降者数」があるともう少し状況が分かると思う。</p>	<p>「刈谷駅乗降者数」は市民や通勤者等における交通の利便性を示す指標で、利便性は住みやすさを説明する指標の1つとして考えています。</p> <p>しかしながら、利便性だけで住みやすさをすべて説明できませんので、今後の評価においては「市街地・住環境」の施策に位置づく他の3つの小施策との因果関係を整理し、追加指標を検討していきます。</p>
⑧	<p>持続的なワークショップのため人材育成が重要であると書かれているが、年齢が上の方ばかりでなく、若手を育てる努力、若者が参加しやすいような工夫が必要なのではないかと思う。</p>	<p>ワークショップの中には若手や若い経営者が参加しているものもありますが、まだ少数であることは否めません。持続的にワークショップの運営を行うには、若手を育てる努力、若者が参加しやすいような工夫が必要であると考えていますので、今後も関係団体等と対応策を検討していきたいと思います。</p>

No.	2	小施策責任者	次世代育成部長
基本施策	次世代育成・子育て支援	とりまとめ課	子ども課
施策の内容 (小施策)	幼稚園・保育園の整備・充実	関係課	財務課
	行政評価委員からの意見	委員の意見に対する市の考え方	
①	<p>事務事業評価シート「民間保育所運営支援事業」について、運営委託と建設補助は性質の違うものなので、分けて記載する方が親切である。D効率性の欄は、国も県も財政状況が悪い中で、補助制度の活用を実績とするのではなく、市の独自の工夫によって削減されたコスト等を書くべきではないか。公益を目的としている自治体は、全体の効率性を考慮して市益を実現するスタンスでいてほしい。</p>	<p>経常的に必要な経費と投資的に必要な経費を分けることにより、民間保育所運営支援事業の内容がより明確化されると考えられます。今後の対応としまして、事務事業を分割する又は補足説明資料を添付することで事業内容を明確化していきたいと考えています。</p> <p>また、効率性の評価につきましては、ご指摘を踏まえ、「市に必要な保育園の建設や運営の一部を民間に担ってもらうことで、待機児童への早急かつ効率的な対応ができる。」に修正しました。</p>	
②	<p>都市部である刈谷市において、合計特殊出生率が下がり現状維持できており、女性の労働力率のM字カーブも理想の台形に近づいてきているのは非常に珍しく、特筆すべきこと。他地域が「刈谷市モデル」として参考にできるような汎用性もあり、地方創生などで是非PRすべきである。この状況はなぜ生まれているのか理由をしっかりと分析して、今後どうすべきか考えてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、本市の合計特殊出生率は全国や県よりも高い水準で推移しており、女性労働力率のM字カーブも谷の部分が浅くなってきていることは、本市の大きな特長であると認識しています。しかしながら、地方創生を推進していくためには、さらなる向上を目指す必要があります。</p> <p>平成28年3月に策定予定の刈谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、「結婚・子ども育成支援」を基本目標に掲げ、重要な施策の1つとして推進していきます。今後は、ご意見のように、これまで本市で高い傾向を示してきた理由を分析しつつ進捗管理を行い、不断の見直しを行いながら計画の推進に努めていきたいと考えています。</p>	
③	<p>事務事業評価シート「預かり保育実施事業」について、C事業コストの職員人件費欄には、現場の人件費も分かるようにするとよいと思う。検討してほしい。</p>	<p>預かり保育実施事業などの幼稚園や保育園で実施している事業は、現場の保育士や幼稚園教諭が実施していることから、事業コストはその人件費も含めたほうがより現実的であると考えられます。人件費の計上方法については、本事業のみならず、他の事業や他の分野にも影響してきますので、今後、現場の人件費も反映できるよう全体的に検討していきます。</p>	
④	<p>小施策レベルの指標をつくったのは大変よい。大施策レベルでは、成果指標が2つとも主観的な指標となっているが、例えば待機児童数などの客観的な指標もあるので、次の計画をつくるときにはその点を意識して、ふさわしい指標を設定すべきである。</p>	<p>ご指摘のとおり、2つとも主観的な指標となっていますので、次の計画策定時には、主観と客観を意識して指標の内容を考慮し、推進状況がより把握しやすい内容となるように検討します。</p>	

	行政評価委員からの意見	委員の意見に対する市の考え方
⑤	これから働く世代が減少し、さらなる産業の活性化や安定した税収が求められる中で、女性の活躍はますます重要となる。長時間保育や預かり保育の充実など、元気な女性、元気な母親が働ける施策を考え、実行していることを評価したいと思う。今後とも推進して欲しい。	女性の社会進出や活躍が重要となっていることから、今後も長時間保育や預かり保育などの充実は必要と考えていますが、子どもにとって保護者と接する時間が何よりも大切であると考えています。「家族」「地域」「行政」等が協力し、次代を担う子ども達を育てる環境の整備や、子どもの生活が最大限に尊重されるような施策を推進していきたいと考えています。
⑥	園を見学し、充実した設備が整っていると感じたが、どの園も保育士に支えられていることを忘れてはいけない。ヒトは重要であり、効率性で測れない。すべて効率性で判断しないで、子どもたちが健やかに育つためには、個人のモチベーションが重要である。	保育者と園児は、多くの日々を共に生活していることから、保育者の表情や言動等が、子どもの健やかな成長に大きく起因しています。子どもに対して愛情を持ち温かいまなざしを向け、心に寄り添う保育ができるように、保育の質を高めることが大切であることから、保育者の意欲と向上心が持てるように、職場環境の向上や職員研修などによる資質向上に努めていきたいと考えています。
⑦	見学した園は、災害対策がなされ、スペースをうまく利用した利便性の高い設計となっている。保護者が園を選ぶときの基準の1つにもなるため、常に新しいデザイン感覚を持ち続けてほしい。	今回、見学した2園(富士松南幼稚園・富士松南保育園)は、平成10年と今年竣工したばかりの市内でも新しい園であるため、ゆとりある設計がなされています。また、現在建設中のさくら保育園は、敷地の起伏や高低差を活かした3階建てとなっています。今後も園の設計に際しては、他市の先進的な施設を参考にしたり、利用者、保育者、専門家の意見を取り入れたりするなど、安全で使いやすく、地域の特性を活かした、地域住民や利用者から愛される施設づくりに心掛けていきたいと考えています。
⑧	逆の見方をすると、子どもがいなくなり、いつかこの園舎がいらなくなる時代がくる。これから保育園をいくつもつくらなければいけないが、財源も大変。減価償却費等一覧から今後の改修も大変。そういった先のことも視野に入れ、今後、どのように対応していくのか考えてほしい。	本市では、0～5歳の人口はほぼ横ばいで推移し、出生率は増加傾向にあります。日本全国各地で人口は減少傾向となっており、0～5歳の人口も同様です。女性活躍推進でこれから保育園需要はますます増してくると思われるもの、ご指摘のとおり、今後必ず需給バランスが逆転する時代が訪れると考えられます。 本市では、公共施設維持保全計画に基づき、計画的に施設の保全、建替、再編を行うことで支出を平準化するよう努めていますが、将来的な需給バランスも視野に入れ、今後の計画管理を行っていきます。
⑨	アメリカの経済学者ベッカーは、「子どもを生む費用」を計算し、生むことが損、生まない方がキャリアを築き、より豊かな生活ができると述べているが、子どもを生むことは絶対的にプラスであり、理屈ではなく、0～2歳児のかわいさは他のことを補ってあまりあるもの。核家族化により若者が0～2歳児にふれあう機会がほとんどなくなってきたので、幼稚園・保育園を使ってその機会をつくらせていただきたい。それが一番有効な少子化対策であり、出生率を上げる方法だと思う。	本市では、中学生の保育実習や職場体験、高校生や大学生の保育ボランティアにより、幼稚園や保育園を訪問して園児と接することで、子どものかわいらしさを感じる機会を設けています。 今後もなお一層、若者が幼稚園や保育園で園児とふれあうことで、子どものかわいらしさを感じ、子どもを大切に育むとともに、若者自身も子どもを生み育てたいと感じていただける機会を提供していきたいと考えています。